

平成 28 年度 狛江市市民活動支援センター第 3 回運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 28 年 11 月 28 日 (月) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委員長 三島瑞子
副委員長 上田英司
委 員 伊藤輝芳 伊藤聡子 内海貴美 大矢美枝子 鈴木茂 田部井則人
西岡邦子 松村正俊 松村雪子 (50 音順 敬称略)
事務局 高橋宗孝 志田五十鈴 白石珠美 高橋善治 中里紀男 日比野浩
- 4 欠席者 委 員 川久保享 崎山泰旦 高橋英史 羽田野英博 PTA 連合会
高橋宗孝(事務局職員として出席したため)
- 5 傍聴者 3 名
- 6 提出資料 狛江市市民活動支援センター指定管理業務報告書
介護予防・日常生活支援事業のチラシ

【事前配布資料】

- ①狛江市市民活動支援センター ～こまえくぼ 1 2 3 4～ 平成 29 年度事業計画書 (案)
- ②狛江市市民活動支援センター平成 29 年度予算 (案)
- ③社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会狛江市市民活動支援センター運営委員会の設置及び運営に関する要綱の一部改正について

7 会議の結果

1. 開会

(事務局) お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。54 年ぶり 11 月の降雪もありましたが、体調管理には注意していただければと思います。本日は社会福祉協議会の小林常務理事が欠席のため、委員の高橋は事務局の責任者として出席しますので、ご了承ください。

2. あいさつ

(委員長) 寒い中ご苦労様です。私も風邪が治ったところですが、今日も風邪をひいていらっしゃる方もいらっしゃいます。寒いので、なるべくスムーズに進めたいと思いますので、ご協力よろしくおねがいたします。

3. 議題

(1) 狛江市市民活動支援センターに関する提言について

(委員長) それでは議題に入ります。

初めに、狛江市市民活動支援センターに関する提言についてです。

提案としては、市民活動支援センター運営委員会の設置及び運営に関する要綱の第3条で、5項目について協議および検討し、その結果を会長に提言をする、となっています。その中の一つに支援センターの事業計画及び予算に関することがあります。

事業計画と予算に関しては第2回運営委員会と臨時運営委員会で協議をしてきました。そこではまとまりませんでした。その後調整を行いまとめたものが本日の資料1と2です。臨時運営委員会後からまとめができるまでの経過と要点を事務局から説明をしてください。

資料1. 資料2により、事務局から説明

(事務局) まず事業計画についてです。事業計画の目標は、支援センターのPR、より良い相談対応、情報の収集と発信の3つになります。

支援センターのPR

今年度わくわくサロンとして考えていたものは、講演会のような形で市民活動や市民活動支援センターについて知ってもらうためのきっかけづくりとして実施を考えました。

また、新たな人材の発掘と合わせて、地域センターや地域センターを利用している団体の抱える困りごとや課題などの情報収集をして、一緒に問題解決できるようにしたいと思います。

加えて、ホームページを開設することで、市民活動支援センターの利用・活用をしてもらうために、新たに説明会をしてPRということも合わせて実施していきます。

また、市民活動支援センターの機能として求められているネットワーク・マッチングについては、団体間の交流の場としてのサロンを通して得られた課題などを基に団体向けの講座を実施します。

計画案の中には書かれていませんが、現在、市の社会教育課が主となって進めている学校支援が第5小学校をモデル校としてようやく動き始めます。その時に市民活動支援センターが学校支援ボランティアの人材の登録先となり、情報を一本化することが今後求められてきます。市と協力して進めていくことの大きな一つと考えています。

次に予算についてです。

前回皆さんに確認してもらった予算書をもって、社協としては市に提出しましたが、市からもう少し削減するようと言われ、社協と市で協議しながらこの予算に最終決定しました。(一覧表は、少し見やすいように変えてあります)

・(人件費以外の支出で)今年度よりも少ないところもありますが、事業を縮小したわけではなく、今年度半年やってみての実績をベースにし、またできる限り無駄をなくして費用をおさえるように調整しています。

(委員長) 質問などあればあげてください。
特にないようですので、この事業計画案と予算案をもって、提言とさせていただきます。

(委員) 今の説明で、予算案は市と協議のうえ決定したということでしたが、私たちが社協の会長に提言ができるのでしょうか。

(委員長) 変更することは難しいです。前回協議したものを基に調整して案を作成したということです。

(委員) 市と話をして作成しているので、提言ではなく報告になるのではないのでしょうか。提言できる話であれば提言でいいが、そうでないものならば報告としてもらったほうがすっきりすると思います。

(委員長) 前回までの協議のものを基に提言書を作り、最終的に承認いただけますかということですね。形式を整えて提言書としてまとめ、提出してよろしいでしょうか。

(委員) 提言はどこに出すのでしょうか。

(委員長) 要綱に沿って、社会福祉協議会の会長に提出することになっています。その他意義がないようですので、体裁を整えての提言書の提出は、正副委員長に一任ということにさせていただきます。

(2) 社会福祉法人狛江市社会福祉協議会狛江市市民活動支援センター運営委員会の設置及び運営に関する要綱の一部改正について

資料3により、事務局から説明

(事務局)

変更点は2か所になります。

①現要綱では、副委員長が1名となっていますが、副委員長2名へ改正するという案です。理由としては、委員長から要望があったこと、実際の運営で調整において多様な意見交換ができるようにしたいこと、また、正副委員長に事故等が生じた場合に委員会対応ができることになります。

②前回の委員会でも専門部会については要綱変更をするということでしたので、それについての要綱の一部の変更案を次のようにしました。

第7条の専門部会は削除し、(小委員会)の項を設けて運営委員会の中で、個別に調査や議論など行って検討する必要があるときに対応できるようにしておくというこ

とで、案としてあげています。

(委員) 改正案は誰が出すのでしょうか。要綱は社協が作成したものなので、こうしたほうがいいということは運営委員会として社協に提案するというのでしょうか。

(委員長) はい、そうです。前々回の運営委員会で、運営委員会が実務的なことをするのはおかしいのではないかとということで、今回の提案になりました、小委員会については、今回改めて提案という形になっています。

(委員) 専門部会をなくして小委員会という名前にするということでしょうか。

(副委員長) 最初の運営委員会で、専門部会に運営委員が必ず属するとか、専門部会が運営委員会の中にあるのはどうかという意見がありました。今の要綱の中には専門部会がそのまま残っているので、現状と合わなくなっているための要綱改正ということになります。

(委員) 事務局と運営委員会の2つをまたいだ専門部会という認識でしたが、運営委員会の要綱には、運営委員会の中に専門部会を設けると書いてあるだけなので事務局の中にある専門部会と一緒にどうかということは書かれていない。今ここで言うのは、それを分けるということですよ。専門部会は事務局の中の仕事をやる人たちであって、運営委員会は事務局の中の専門部会には入らないということをはっきりさせるために名前を変えようということですよ。

(事務局) これまでの委員会の中で、運営委員会が実務的なことをやるのかどうかという話があり、要綱にはその点が書かれていませんでした。専門委員会は実務的なことをやる形で当初考えていましたが、これでは矛盾が生じることになるので、要綱の改正をするという方向になりました。専門部会は、社協に属するのでこのまま活動していくことになります。小委員会は、運営委員の皆さんが議論していく中で委員さんの中から何かしたい、したらいいのではないかとした場合に設置することができるよう、小委員会という形で残したというのが経緯です。

(委員) 小グループで何かやりたくなった時に、要綱として書いておくと、少人数で話し合えるという説明で良いでしょうか。

(委員) 専門部会と小委員会と言葉の使い方を分けて、名前を変えることでわかりやすくしようということ。専門部会は事務局、社協に紐づくもので今動いている専門部会のこと、小委員会は運営委員会の中で何か集まりたくなった際のものということになりますね。

(委員) この改正案を出して、承認されないといけないということですか。今日承認するだ

けでまだ結論は出ないということですか。

(委員長) そうです。この案を社協の理事会に提出して承認されれば施行されるということになります。運営委員会は、提言や承認をしますが、決定権はありません。承認していただけますでしょうか。

意義なしということで、この案件については承認されました。

(3) 報告事項について

① 狛江市市民活動支援センター運営委員 勉強会の報告について

(事務局) 10月27日の夜に有志で勉強会を実施し、6名の委員、傍聴の方に参加いただきました。上半期の事業の中で2つを報告しました。それについてグループになり意見交換をいたしました。報告については、テーマ別体験プログラム事業と、企業のCSR（社会貢献）に関する相談から報告をさせていただいています。定年後のシニアの方の活躍のしてもらい方、声のかけ方など、事業を通して課題を抱えた団体と地域に眠っている人をマッチングできるように工夫していけるとよい、センターの目玉企画をしてはどうかなど様々なご意見をいただきました。

実際にご参加していただいた委員の方に一言いただければと思います。

(委員長) 基本的には、市民活動支援センターは何をする所なのかということを経営と職員と共有したいという大きな目的があって始めました。

企業の社会貢献についてという報告が目新しいという感じがしました。今いろいろな企業が社会貢献するプログラムをしているので、市民活動支援センターがそういった情報を集めて上手にネットワークしていくことがこれから必要になると感じました。また、シニア世代の方が、会社を辞めていきなり重要な役割を取ってきて同じような姿勢で地域に出たとすると、ご本人も地域も困るというミスマッチが起きるとということが印象的で、地域に出ていくための学習プログラムのようなものを市民活動支援センターが提供できるといいのではないかと思います。

(委員) 半年たたない中の報告事例として、新しい提案を持ってきた相談と、すでに活動している団体の事例でした。仕事を辞めた方がどういう風に地域で活動していくか、また、活動団体同士を引き合わせる事など、市民が持ってきた提案をどのようにつくっていくか。そのような活動の実績を積んでいくことが大切ではないかと思います。すでに活動実績がある団体やこれから活動に参加する団体のコーディネート、つまり、出会いの場所を作り人をつなげていかないといけないのではないかと思います。

(委員) 2つの事例を見て、グループ活動をやっていくうえでの課題として、若い人は活動に参加しない、イベントに参加するだけで終わってしまう、忙しすぎてなかなか参加できないとい

う話がありました。こまえくぼでも目玉企画をとという話が出ましたが、アドバイザーとしてこられた先生からは、目玉企画として定着させるためには5年10年やっていく必要があるという話が印象的でした。

(委員) 全体を通して難しいと思いました。一番は、いろんな活動をみんなやっているけれど、支援センターがやる仕事は何かというところを考えてやらないといけない。歌をうたうにしても、自分たちでうたっていれば娯楽だが、施設に行けば社会活動、ボランティア。支援センターが何を目的にしてやっているかということをはっきりさせないと、やるが多すぎて本来の目標を見失う可能性があると感じています。

ここは、地域の困りごとを市民と一緒に解決するための場所。そこを視点にいろいろなことをやっていると、本来の目標を達成しない。社協のボランティアセンターの時の目的ではなく、市が掲げている目標でやっていくよう気を付けなければ、大変かなと思いました。

アドバイザーの山岡先生からもらった資料で、全国で行っている支援センターの抱える課題は、お金が足りない、人材育成が大変など、どこでもだいたい一緒。専門的な知識を職員が得ることや、専門的な知識を持つ市民の協力を得るとか事業計画の中にあることとうまく組み合わせてやっていると、他のセンターがやっていて失敗していることと同じことをやっても仕方ないので、考えていく必要があると思いました。

(副委員長) 一つの意義として、委員自身も市民活動支援センターを知る機会が少なかったのがよかったと思います。残念だったのが、欠席が多かったこと。委員会もある中で、回数を重ねていくことがなかなか難しいと感じました。

市民活動支援センターは、もともと地域の課題を解決しようと運営委員さんはバックグラウンドをもって参加されているので、それぞれの委員さんの団体の困りごとや、向き合う社会課題など、バックグラウンドに踏み込んだ勉強会をやっていたらと感じました。

支援センターは協働が大きなポイントであり、委員さんのバックグラウンドも多様なので、その中から協働のヒントやきっかけが作っていったらよいと思うので、そういったことを紹介したりディスカッションしたりできたらどうかと思いました。

(委員) 地域センターでやっている「そばうち」は、活動していても知られていない。こまえくぼも同じで、場所は知っていても何をやる所かわからないということがあるので、知らせいくことは必要だと思いました。地域の人が地域の大人や子供を教えているということを知ることができてよかったと思います。今後につなげていくということについては、5年から10年やっていくことでいろいろな意見をもらい、どこに着眼点を置いていくか、運営委員もこれから意見を出していかないといけないと思いました。

(委員) 運営委員と事務局が一体となって動く、委員もバックグラウンドを活かして情報を

集めて発信していく、事務局にどんどん提案して、できることからやっていくことが大事かなと思いました。事務局の説明が足りないところも、みんなで補いあってやっていけばいいかなと。

バックにある団体を背負ってきているので、それを活かせばいいのかなと思います。

(委員長) 副委員長の提案とマッチしたお話だったと思います。

勉強会からの流れで、副委員長からそれぞれの背景にある団体の課題や疑問を勉強会というか、提案しながらみんなで情報共有していくという提案について、どう思われますか。

(委員) 市民の情報をあつめて、市民の力になるように援助するという印象が強い。何度も言われているが情報を集める。勉強会の材料として、課題を抱えている団体を講師にして、どうしたらいいか話しあう。そういう団体を募集して、悩みを話してもらおうと、共通の認識を持てるのではないかと思います。

(副委員長) 勉強会を改めてというよりは、委員会の後などに少し時間をとってもいいのではないのでしょうか。古くからある町会の悩みなどは市内の共通の事項だと思うので、そのような町会の悩み事を話してみてもよいのでは。

(委員) センターが日々受け付けた相談の中から出してもらうのが、本来のやり方だと思います。委員会で活動の状況を報告してもらっているが、センターが目的に向かっているかどうか分からない。課題や困りごとなど、私たちが集まらななきゃ悩み事が分からないようであれば、センターは何をしているのかという話になります。

センターの活動の中から、今こういう相談があります、こんな悩みがあつて後継者がいなくて自分たちがサーチしてきた内容を教えてもらおうと、皆さんも知見があつてサポートができると思うので、私たちにわかるようなシステムにしてほしい。

(事務局) 報告で中身が見えないのは反省点です。先ほど、課題を抱えている団体に来てもらうという話がありましたが、集めてきた課題について意見交換や情報交換をするということであれば、その当事者団体に来て話をしてもらおうほうがより意見が深まるのではないかと思います。

(委員) お困りごとがあれば市民につなぐということは、事業計画でも支援センターがなすべきこととしているので、そういうネットワークができているかどうか、できていないのならなぜなのかということを委員会で話ができればいいと思います。人がつながっていない限りできない、お互い仕事の分担をわかってやっていかないといけない。私たちは、今年度やるといったことがどこまでできているのかわかっていない。お互いにできるところが何か、そういうところを分けてやった方がいいと思います。

(委員) もっとここまでやっているとか、実際の活動内容が知りたい。市役所の担当課も支援センターが力を付けないと課題を持ってこないし、力をつけたら持って来ると思います。頑張っているのはわかるが見えない。一緒にわかりたいので、運営委員会では見えるように具体性があつたほうがいいと思います。

(委員長) 副委員長の提案は、勉強会のやり方として、まずは運営委員のバックグラウンドの団体の課題や活動を共有しながら、テーマにするといいと思うということです。

(委員) マクロの視点だというのはひとつあると思います。簡単なものを手短かにやってみるのも一つかなと思う。あまりいい例ではないかもしれないが、たとえば、高齢者施設で利用者の娯楽的なものを希望しているというニーズがある、もう一方で趣味の団体がたくさんある。彼らの中にもみんなの前で何かやりたいと思っている人たちがいると思う。最初は向こうから「やりたい」と言ってくれば一番だが、今はまだ知れ渡っていないから、こちらからちょっと促して高齢者施設で披露してもらえれば、趣味の団体からボランティア団体に代わっていく。お金が必要だとか問題はいろいろ出てくるかもしれないが、まずは入りやすいし、自分たちも一緒に勉強できるかなという気がします。

大マクロは大マクロで勉強しなければならないけれど、外部のコンサル頼むとか、よその意見を聞くとか平行線で、一つは自分たちで勉強してわかりながら、一つはマクロの意見を聞いて吸収していく、そうしていくと進んでいくのではないかなと思います。

(委員) 法律が先にできて、それから何とかしようということではなくて、問題を解決することでかたちができてくる方が早いと思います。

(委員長) 次回、お二人の委員に話をしてもらったと思いますが、いかがでしょうか。別の時間に勉強会を行っても、委員の参加が少ない。委員会の後に時間をとってお話いただいたら、皆さんと共有できるのではないかと思います。

(委員) だれが何を勉強するのか。事務局ではなくて、運営委員が勉強するというものでしょうか。

(委員) 広報部会は公募の人たちがとても一所懸命で、季刊誌も来年出す予定です。あといくつか部会がありましたが、そういうところがひとつひとつ進んでいけば、いいのではないかと思います。皆さんから要望があれば、一つの事例としてお話しすることはできますが、皆さんはどう思われますか？

(委員) 1回しかやっていないし、前回の勉強会はたまたま人数が少なかったと考えていい

と思うので、活動している人たちの悩みを話してもらおうということでもいいと思います。

(委員) 勉強会の時間も誰でも出られるような時間でないと難しいのではないのでしょうか。

(委員長) 勉強会の時間については、委員会とは別にとるとのご意見と、運営委員会の終わりの時間に委員さんの抱えている課題について共有してもらおうという時間を設けたらどうかということですか。

(副委員長) まだ1回しかやっていないので、勉強会をもう1度やるということでもいいのではないかと思います。委員さんのバックグラウンドにある団体や、外部の団体のお悩みを聞くということでもいいかもしれません。個別の団体というよりは市民活動支援センターなので、広い話題で共通するようなものの方がいいかなと思います。

(委員) 団体の課題なんて、すでに出ています。人がいない、後継者がいない、定期的な場所がない。分かっているけどどうしたらいいかわからない。できない理由があるところをどうやって解決するかというノウハウを支援センターが持たない限り答えは出ないでしょう。

(委員) 課題は出ているが、その課題に対してどんな努力をしているかということを知りたい。それを聞くということが必要だと思います。

(副委員長) 勉強会をやるのは賛成です。先ほど話に上がっていた人材不足などはマネジメントの課題、一方で空き家問題などは今ある社会課題といえます。市民活動支援センターの一つの軸としては、マネジメント的な課題に対しても困りごとを解決しなければいけないが、今ある潜在的に眠っているいろいろな社会課題にもアプローチをしていかないと、なんでも屋さんになってしまうので、市民が躍動してやっていくためには、今地域にある課題についても議論したい。

課題に対して二つの軸があると思うので、マネジメント的な課題だけでなく、社会課題についても取り上げたいと思います。勉強会で悩みの共有をしてどうやって解決するかの実践事例というのはいいいと思います。

(委員長) 2つの課題解決と、新しい価値を提案していくという2人の委員の事例を基に勉強会という形で取り上げるということで、日程は事務局に調整をお願いしたいと思います。

②指定管理業務の報告について

(事務局) 具体的な事例が報告書に出ていないのですが、受けた相談の中で今後の課題として

感じた一つの事例として、講座開催時の託児ボランティアの相談を挙げたいと思います。

市役所では、毎年子育てボランティア講座を実施していて、講座の受講生には活動先を紹介していますが、今回託児ボランティアの相談をしてきた部署と子育てボランティア講座をしている部署は別の部署のため、講座の受講生に託児ボランティアの紹介をすることはできないというおかしな事態が生じています。同じ市役所内でこうしたことが起きることに非常に矛盾を感じ、講座の受講生に市民活動支援センターに登録をしてもらうことができれば、センターから活動先につなげることができるだろうと考えるような事例がありました。

(委員) 図書館の勉強会などの時に公民館を使うが、公民館の子育ての部屋は自分たちのグループ以外は使えないようなので、閉鎖的というか難しいと感ずることがあります。図書館の場合は、公民館と相談して子育てグループの人に頼んだりしているようですが、公民館で講座するときも子育てグループの人に託児ありますという小さい子も連れて来られるが、なければあきらめる人もいる。ここに登録してくださいとアピールすると、子育てママで時間のある方ならできると思うので、ボランティアとしてやりがいもあっていいと思います。

(委員) 委員会では、こういう話ができるといい。

(委員) 実際どういうことがあって、どう進んでいて、私たちもそれを解決して、このセンターの目的である市民の皆さんのお困りごとが解決できたとなれば、ここがあったからできたことだと市役所にアピールすることができたら、市も喜ばしいのではないか。お困りの市民は所管課があるから困っている。市も自分たちだけではできないところが、支援センターを作ったことで市民も市も喜ぶ、私たちはそういう情報を集めてきて、委員の皆さんのネットワークでお願いするとかいろいろな団体に呼びかけてもらうとかすることができます。一番は解決することであって、そういう意味では、支援センターはフリーにできるし、そうしたネットワークをこのセンターが作っていく。

団体登録も全部支援センターでできたら、子育ての団体も登録してもらって、必要だったら条件があえばいつでも活動してもらうように。ストーリーを作って活動をしていかないと必要ないと思われてしまう。

(委員) 登録してくださいと言っても意味が分からない人もたくさんいる。登録したら何がメリットなのか、ただ登録団体を増やしても意味がない。一歩前進したら評価になる。大変だったら、委員だって一緒に行ったっていいわけです。

(委員長) 情報が一か所に集まったからこそ、疑問が出てきたとも言えます。

(委員) 事例を紹介してくれれば、経験ある人が集まっているから、センターだけで悩まな

くても、みんなでやればいい。こども食堂やフードバンクも応援して立ち上がったのだから、それが今どうなっているのか、そういうこともフォローして、アドバイスすると言っているのだから、それがどのくらいあるのか、などもわかるといいと思います。いろいろな人の知恵、運営委員もそのネットワークに入るし、そういう話ができると思うと運営委員会も来てよかったと思います。

(委員) その他の意見のところ、開館時間を延長してほしいという意見は多いですね。支援センターの設置場所として、この場所が分かりにくいという意見がある。今後、ここでずっと続けていくのかどうかも今後の課題として考えた方がいいと思います。市民センターも改築する予定があると思うので、そのあたりも検討事項に入れていただきたいと思っています。かなりスペースができると思う。まだわからないが、そういう案も出ているので、前向きに考えたらどうかと思います。

(委員長) 支援センターを市民センターの増改築の際にその中という意味のご提案として伺います。

③市民活動支援センターのホームページの開設について

(事務局) 市民のアドバイザーの方にアドバイスいただき 11月30日にリリースし、12月1日に情報部会の公募を開始します。ホームページはセンターそのものであるため、このセンターの目的なども伝えられるように定期的にホームページの説明会実施を考えています。説明会の中で使い方講習会も考えています。皆さんの活動の報告ができるので、活用していけるようにしたいと思います。12月7日(水)10時から第2回目の講習会をします。基本的には情報部会のメンバー向けですが、委員の皆さんでもご都合がよければぜひ、お越しください。

(委員) 講習会は誰が対象の講習会ですか。

(事務局) 登録した団体の方です。情報を発信していくやり方の説明です。

(委員) 団体ページの右側に自由に書き込めるのでしょうか。

(事務局) 画面の左側には基本情報、右側にこれからの予定や活動の報告を写真付で知らせたり、ボランティア募集の記事も載せたりすることができます。

(委員) 一つのイベントが終わったら消して、情報をどんどん重ねていく感じでしょうか。

(事務局) 積み重ねが各団体の活動実績にもなると思います。発信していく喜びも感じてほしいので、そのために市民の方で協力してくれる方から教えてもらって、たとえば写真を撮るのに、カメラの勉強をしたいとか、パソコンの練習をしたいなど、パソコン、写真、ビデオなど、皆さんからのリクエストに応じていくこととなります。

(委員) センターのやることの中で、いろいろな媒体でいろいろな情報を発信するという事になっているが、どんな情報を何で発信するかを整理したものを作ってほしいと思います。何を支援センターが発信するのか。支援センターが市民にいろいろな情報を発信しているのか、どんな情報をホームページで発信するのか、季刊誌ではどう発行していくのかそれをはっきりしておいてほしいと思います。

(事務局) 広報部会から情報部会と一緒に活動することを検討したいという声もあるので、情報部会が立ち上がったら、お互いに情報共有しながら検討をしていく予定です。

(4) その他

①専門部会からのお知らせ

(広報部会)

9月に説明会、10月に発足し、計6名で活動していて、12月5日には第5回目の会議を予定しています。市民と一緒に市民の目線で発信していくコンセプト、方向性共有から始めていて、自身の検討をしているところです。

季刊誌のタイトルは、「こまえがお」に決まりました。活動している方の顔がわかるような読み物としての情報発信をしていきます。3月中の発行を目指しています。

(体験学習部会)

11月10日に公募の募集説明会をし、2名に参加していただきました。11月30日が公募の締め切りですが、現在はまだ応募がない状況です。総合学習の授業協力、次の段階として一般市民向けの市民学習なども今後の予定として考えています。市として学校教育を地域で支援していこうという取り組みが第5小学校をモデルとして始まるので、市の担当課と連携して学習部会は進めていきたいと思っています。現在は、まだ部会の応募者がいないのが一番の課題なので、委員のみなさんのお知り合いにいらっしゃれば、ご紹介いただきたいと思います。

②介護予防・日常生活支援事業のお知らせについて

市役所から介護予防・日常生活支援事業についてのお知らせを預かっております。平成29年度から狛江市でも事業が始まる予定となっておりますが、このなかの一部を市民活動団体・ボランティア団体がその役割を担うようになります。そのため、市民活動団体を支援する当センタ

一も団体の相談などについてのかかわりが出てくるのが考えられます。こうした部分でも支援センターの関わりが出てくるということでお知らせをいたします。

③その他お知らせ

(委員)

市民参加と市民協働に関する審議会から、毎年行っている市民フォーラムのお知らせ

「第1回 狛江☆サミット」(狛江市 参加と協働フォーラム)

日 時：1月21日(土) 午後2時から

市民活動団体のPRと団体同士の交流、個人的に市民活動に参加したいと思う人のきっかけにすることを目的としています。10団体程度に活動について発表してもらう予定ですがまだ出そろっていないので、委員の皆さんの知っている団体やこまえくぼに登録している団体にもお声掛けさせていただくと思います。今私たちがやろうしている内容と近いものがあると思うので、当日お時間のある方は一緒に参加していただければと思います。

(委員長) 先ほど、委員から市民センターの増改築の話が出ていることに関して、市民活動支援センターが移ることの要望の提案がありましたが、別の委員からもご意見を伺っています。市民活動支援センターを市民センターの増改築検討の中に入れてもらいたいという要望を検討してほしいという提案がされています。先ほどの提案と一緒に今後検討していきたいと思います。

(委員) この提案はだいぶ前からあったと思いますが、ここまでの提案が今年市長に提出されているので、今の段階でここに入れるのは難しいと思います。ただ、皆さんが共通理解をしたうえで検討するようにしてほしいと思います。

それから、体験学習部会についてですが、学校の授業協力で音楽関係の協力をしている。同じようなことをしていることがあちこちにあるよりはまとまったほうがよいのではないかと思います。

(事務局) 市の取り組みについても、情報についてこまえくぼで一括管理してほしいという要望があります。市民活動をしていただく方については、こまえくぼに登録しておけばどの学校でも活動できるというような仕組みを考えているので、団体の情報もこちらで一元管理できるようにしていきたいと思います。

(委員) 私もここが立ち上がってまだ1年たっていないので、まだ運営委員会で提言とか動く時ではないかなという気がします。どんな活動も知らない人は全然知らないので、ここをもっともっと宣伝して場所を知らしめていって、もっと活用してもらえるようにしていく方がよいと思います。

(委員) 学校支援が第5小学校をモデルとして始まるということだが、小学校の先生方も、

どんどん積極的に来てくれて構わないといっているのに、それ以外のところもどんどん出かけて行ってパイプを作っていた方がよいと思います。

(委員) 校長会などに話に行くとよいと思います。

(委員) いろいろな団体を訪問していると思うが、どんな団体に訪問しているかわかるようにしておいてほしい。第三者にわかるようにするために、このくらいのことをして、あとこのくらいできれば何とかなります、あとこのくらい必要ですということがあれば、予算にも反映させていける。私たちはこの窓口にいないからわからないので、わかるようにしてほしい。そうしたらみんなで一緒に考えることができるようになります。

(委員長) センターが具体的に何をしているのか、何をしてほしいのか、しっかり運営委員会で情報を発信して共有していくということ、いろいろ工夫しながらやってほしいという意見は皆さんから出されたと思います。

次回の運営委員会の日程は、2月8日(水)18時30分からとなります。

本日の運営委員会は以上となります。